

校長室より

二松学舎大学附属高等学校

校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」

1 学期終業式より

朝、九段下駅から地上に出ると皇居牛が淵沿いの桜の木と靖国通り沿いの銀杏の木からシャワーのように蝉の声が聞こえてきました。関東地方の梅雨明け宣言はまだ出されていませんが、夏真っ盛りです。

蝉といえば小学生の頃、捕まえては、虫かごに入れて数の多さを友達と比べていました。虫かごに入れておいても蝉は翌日には動かなくなっていることが多かったのですが。そんな儂い一生の蝉を虫かごからつまみ出すと市販されていた昆虫採集セットの注射針で緑色とピンク色の液体を注入した記憶がよみがえります。こんな記憶は昭和世代のものかもしれませんね。液体の成分は何だったのか？子供は生き物に対して非常に残酷です。実は99%の人が虫を殺した経験をもつそうです。命の感覚をまだ理解していないからともいわれますが、子供ながらに自分自身の行動にゾッとします。大人になると経験を積み、生き物に対して「可哀そう」といった感情を備えていきます。我々人間は経験により成長していくわけです。皆さんも色んなことにチャレンジし経験値を増やしてください。

でも、大人になっても蚊に刺されれば叩くし、台所で茶色い物体を見ればスリッパをもって追い掛け回すし、生命尊重の気持ちはどこへ行っちゃったのと思います。

さて、1学期も今日で終了、これから長い夏休みを迎えます。それぞれ計画的に有意義な夏として欲しいと思います。

1年生、入学式で思い描いた高校生活を送れていますか？

2年生、二松の中核として、部活動や行事の企画・運営を運んでいますか？ また、将来の目標に向けて課題の整理と克服の見通しを立てているでしょうか？

3年生、進路実現を目指して本格的にとりかかる時期、気持ちの準備はできていますか？

多くの人が受験を控えていることでしょうか。夏を制する者は受験を制すとも言われます。

それぞれ、しっかりと夏を迎える前に、まずは自身の生活を分析してください。そして目標を達成できるよう一步步着実に努力を続けてください

今日は私からは3点の話をする。

- 1 SNSガイドラインの遵守
- 2 コロナ感染症・熱中症への対応
- 3 気持ちのよい挨拶の励行

それでは、9月に元気な顔を見せてください。

もし悩み事があれば、一人で抱え込まないこと。友達、保護者、先生、外部の相談機関などを活用してください。誰かに相談し一緒に考えてくれる人がいると感ずることが大きな心の支えになることでしょうか。

先生方も研修 ～テーマ「発達障がいについて」～

7月15日、本校スクールカウンセラーの井上先生を講師に職員研修会を実施しました。

井上先生からは「発達障がいや精神疾患は、学校において2次・3次的な問題」との指摘があり、学校で生じる問題には①複合的な問題（不登校・非行・自傷行為など）、②発達障がいの2次的な問題（注意・集中力など）、③対人関係の問題（いじめ・ケンカなど）、④精神的な不安定・意欲や自尊心の低下（抑うつ状態・不安など）、⑤生活状況の悪化・身体症状の発生の問題（頭痛・腹痛・昼夜逆転など）等があり、これらが関連し、悪循環を起こしているとのこと。

①～⑤のどこにアプローチするのが最も効果的かを考えるのが重要とのアドバイスがありました。

一方、教員・スクールカウンセラー・家族もそれぞれ単独では限界があるので『チーム学校』という考えの下、協働して対応することが大切ですねとご教示いただきました。

皆さんの立場からすれば、終業式でも触れたように、誰かに相談することが解決の糸口ですね。

